

連画リレーの様子

0、はじめに

座間市立相模が丘小学校は、単年度制の学校です。そのため、昨年度経験したことのある子どもは全体のうち3分の1になります。全く知らない子どもとたくさん知っている子どもが混ざり合った場合の実践がどうなるのか不安でしたが、やってみると、その不安がよけいだったことが分かりました。

1、代表の絵をきめる

まず、昨年度(2003年度)に参加した連画リレーの全体マップを見せました。どのようにつながっているのかそこで説明していたのですが、子どもたちには説明がいらなかったような気がします。いろいろな絵をみながら「ここがこういう風につながっているんだね」とか「このつながり方はすごくうまいよ」とかいう声がたくさん聞かれました。

十分にこの活動を行ってから、「今回の活動の種絵はこれです」と今年度のセッション用のHPを見せました。昨年度と今年度で大きく違うことは、ひとことが入ることです。その一言を読むことで子どもたちは種絵を作った人に近づいたような気分になっているようでした。

代表の絵は投票で決めました。この時点では子どもたちは「工夫されている絵」よりも「かわいく描けている絵」や「上手な絵」が好まれていたようです。この点に関しては次回以降の反省点になりました。

2、第一回セッション

たった一人の絵しかアップロードできないということは、子どもたちにとってはとてもさみしいことだと思ったので、前回の活動から間をあまり開けずに、第一回セッションを行いました。このときに前回の反省を行かして「絵を選ぶときには、その絵から全く別のものが生まれるようにしてみよう」といったような言葉を投げかけてみました。相模が丘小学校はパソコンが20台しかないので、2人で1台のパソコンを使うのですが、2人でかなり話し合いながら楽しそうに活動していく様子が見られました。そして、その中で「コピー & ペースト」の仕方や、そのほかの技術的な指導を少しずつ行うようにしました。このときのセッションでHPにアップロードできた子どもは半分ほどでしたが、「はやく誰かがつないでくれないかな」と次回の取り組みを楽しみにしている様子でした。

3、第二回セッション

同じ週の金曜日に第二回目のセッションを行いました。前回はほぼ、自分たちの学校の作品だけだったのですが、今回HPをみるとたくさんの絵にびっくり。しばらく、作品を観察する時間をとりました。そこで、子どもたちは絵がどのようにつながっているのかを考えたり、「ひとこと」の部分を読んで楽しんだりしている様子が見られました。そして、ひとつ絵を選んで本日の活動を開始。今回は一斉の時間を一切とらず、自分たちのペースでどんどん活動を行っていくようにしました。中には絵の取り込み方を忘れていたのですが、説明していくと「そうだそうだ、分かった」とすぐ思い出しているようでした。

今回活動を観察していて思ったことは、子どもたちは自分たちの作品に自信を持っているということです。普段の図画工作だと、自分の絵に自信がなかったりして、廊下に飾ることをいやがる子どももいたりしますが、この活動では「先生見て～」といわれることが多かったです。自分たちがどんなところをどのように工夫したのかを考えることが本当に楽しかったんだなと思いました。また、技術的な質問もほとんど受けませんでした。しかも、写真の取り込み方については前回教えたのですが、今回同じ事を聞いてきた子どもたちに説明をしていると、「この先は思い出したから、もういい」と、なるべく自分たちの力でやりたいという気持ちも表れたりしていました。